

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学術)	氏名	岡田 康太
学位授与の要件	学位規則第4条第1項・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>ソーシャル・メディアを利用しているプロ野球ファンの特性に関する研究 — 広島東洋カープに着目して —</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 沖原 謙 審査委員 教授 上田 毅 審査委員 教授 木原 成一郎</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、広島東洋カープ（以下、「カープ」と略す）ファンを対象として、プロ野球全体の歴史とカープの歴史からカープファンが受けた影響とその特徴についての分析を行った。また、3つの調査を通じて、ソーシャル・メディアを利用しているカープファンの特徴について分析を行った後、その確認をするために調査を実施した。本論文の目的は、ソーシャル・メディアを利用しているカープファンの特性を明らかにすることであった。</p> <p>本論文は5章により構成されている。</p> <p>第1章においては、カープファンが他球団のファンと比較して特殊であることを導出し、これを対象として本論文を執筆することとした。また、「コアなファン」から「潜在的なファン」までの幅広いファン層を調査対象とする必要があるため、インターネットによる調査を実施するべきであると考えた。さらに、ファンはプロ野球全体の歴史や球団の歴史に影響を受けていることが推測されることから、これらの歴史についても並行して見ていく必要があると考えた。</p> <p>第2章においては、プロ野球全体の歴史とカープの歴史から、球団やファンに特に大きな影響を与えたと考えられた出来事を抽出して考察を加えることで、マス・メディアから情報を得ていた時代のカープファンの特徴を明らかにしようとした。その結果、カープの歴史的なコンテキスト・ブランディングの特徴である「資金力不足」から多くのブランド・サブブランドが派生した結果、カープの成績に対する期待に加えて多くの価値観がカープファンの中に形成されていたことが明らかになった。</p> <p>第3章においては、主にソーシャル・メディアを利用して情報を得ているカープファンの特徴を明らかにしようとした。そのために、3つの調査（観戦動機、カープの知識、カープに対する価値）を通じて、ソーシャル・メディアを利用しているカープファンの特徴について明らかにし、最後にその再確認を行った。3つの調査の結果、1)多くのカープファンがソーシャル・メディアを利用し、その影響を受けていた。2)ソーシャル・メディアを利用することで、短期間で興味のあるカープに関する情報を得ていた。3)カープの成績に対する期待に加えて、カープに対するその他の価値が生じていた。具体的には、カー</p>			

プの存在が日常生活に大きく関わっていたことと、黒田のようなマスコミやソーシャル・メディアなどによって話題となった選手だけでなく、若手選手の活躍や成長過程などにも期待していることであった。これらを再確認するために調査を行った結果、多くのカープファンがソーシャル・メディアを利用し、その影響を受けていることを確認することができた。

第4章においては、第2章と第3章で明らかにしたそれぞれのカープファンの特徴を整理し、本論文の結論を導出するために考察を行った。

第5章においては、本論文の結論を示し、今後の課題と展望について記した。本論文の結論として、カープファンの特性を以下の3点に示した。1点目は、歴史的なコンテキスト・ブランディングの柱である「資金力不足」から多くのサブブランドが派生した結果、カープの成績に加えて多くの価値観がカープファンの中に形成されたことであった。これは、カープへのロイヤルティが徐々に上がってきたことを意味していることから、エスカレーターモデルとして位置づけた。2点目は、従来のファン層にはほとんど存在していなかった、カープ女子に代表されるカープファンが近年急増しており、これらのファンは短期間でカープに対するロイヤルティを形成していたことであった。これは、カープへのロイヤルティが急激に上がってきたことを意味していることから、エレベーターモデルとして位置づけた。3点目は、タイプの異なったファンや、様々な価値観を持ったファンが、カープという共通のものを一緒に応援していることであった。そして、これをエスカレーターモデルとエレベーターモデルの共存として位置づけた。今後の課題としては、カープ以外の球団のファンや他のスポーツのファン、さらに他の研究対象（地方都市の再生など）の調査・分析の成果を蓄積することが必要であると考えた。

本論文は次の3点において高く評価できる。

1) プロ野球全体、球団の歴史とソーシャル・メディアを用いた調査を並行して展開することによって、従来のファンだけでなく、多様な価値観を持った現在のファンも含めた広義のファンの特性を明らかにした。

2) ブランド論を援用して、カープにおけるブランド構築の基本構図を明らかにした。

3) カープ女子に代表される新たなファン層が出現した背景や新たなファン構造を明らかにした。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 31 年 2 月 4 日